

第2章 阿賀野川の概要

第1節 流域および河川の概要

1. 流域および河川の概要

阿賀野川は、その源を栃木・福島県境の荒海山（標高 1,580m）に発し福島県では阿賀川と呼称されます。山間部を北流し、会津盆地を貫流した後、猪苗代湖から流下する日橋川等の支川を合わせ、喜多方市山科において再び山間の狭窄部に入り、尾瀬ヶ原に水源をもつ只見川等の支川を合わせて西流し新潟県に入った後、五泉市馬下で越後平野に出て新潟市北区松浜において日本海に注ぐ、幹川流路延長 210km、流域面積 7,710km²の一級河川です。

その流域は、新潟、福島、群馬県にまたがり、本州日本海側初の政令指定都市である新潟市や福島県の地方拠点都市である会津若松市など9市13町6村からなり、新潟県、福島県における社会・経済・文化の基盤をなすとともに、自然環境に優れている地域です。阿賀野川流域は福島県の約4割、新潟県の約1割を占め、土地利用は山地等が約87%、水田や畑地等の農地が約10%、宅地等の市街地が約3%となっています。

また、流域には磐梯朝日国立公園、尾瀬国立公園をはじめ、県立自然公園等があり、尾瀬、磐梯山、阿賀野川ラインなどの景勝地や、福島県の東山、芦ノ牧、新潟県の咲花など温泉地も点在しています。

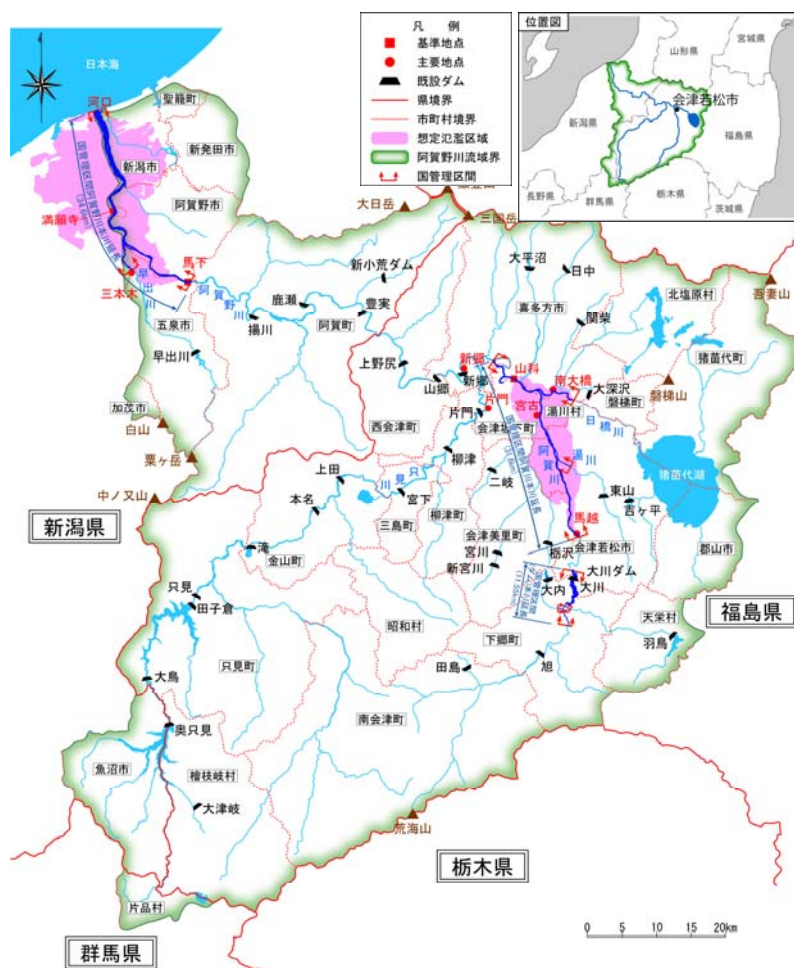


図 2.1 阿賀野川流域図

表 2.1 阿賀野川流域の概要

項目	諸元	備考
流域面積	7,710km ²	全国第8位
流路延長	210km	全国第10位
流域内市町村	新潟県6市2町 福島県3市11町5村 群馬県1村	平成27年3月現在
流域内人口	約56万人	平成17年河川現況調査
河川数	246	一級河川（準用河川・普通河川は除く）

第2章 阿賀野川の概要

2. 地形

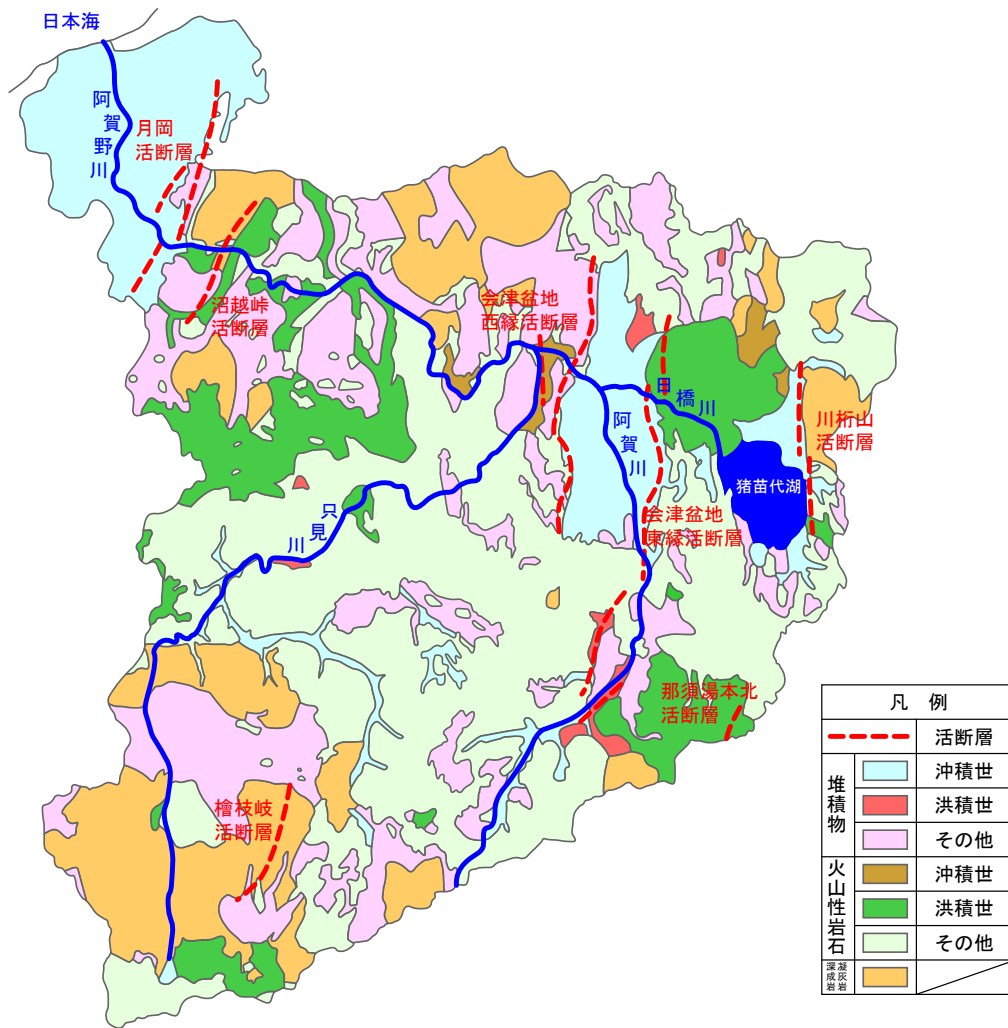
阿賀野川流域の地形は、上流部は東側が奥羽山脈、西は越後山脈、南は帝釈山脈、北は吾妻山と飯豊山など、1,000m～2,000m 級の山々に囲まれ、その中に、南北約 40km、東西約 12km の会津盆地が広がっています。また、猪苗代湖等多くの湖沼が存在しています。中流部は東が飯豊山、大日岳、三国岳等の飯豊連峰によって、西は白山、粟ヶ岳、中ノ又山によって阻まれ、先行谷と河岸段丘が形成されています。下流部は、広大な扇状地を呈した越後平野が形成され、山間部と海岸砂丘に挟まれた低平地が広がり日本海に接しています。



図 2.2 阿賀野川流域地形図

3. 地質

流域の地質は、山地部は主に第三紀層に属する花崗岩、安山岩、石英安山岩等で構成され、平野部や盆地部は第四紀沖積層に属する礫・砂・粘土が分布しています。会津盆地から福島・新潟県境の山地部には秩父古生層、新第三紀の上・中・下部の各層が分布し、下層部はそのまま只見川流域の山地部に続いています。新潟県内の山地部では、古生層とそれに貫入する花崗岩のほか、阿賀野川以南の山地部はグリーンタフが発達しています。また、常浪川以西を主として占める津川層と早出川流域に分布する古生層と、これを貫く花崗岩、流紋岩が広く分布しています。



出典：国土地理院資料

図 2.3 阿賀野川流域地質図

4. 気候

流域の気候は、会津地方、只見地方、越後平野の3つに分けられ、会津地方は盆地により気温の年較差・日較差が大きく小雨多雪で内陸性と北陸の混合型気候を呈し、只見地方は多雨豪雪の山間部であり典型的な日本海側気候となっています。越後平野は、多雨多湿で北陸特有の気候を呈し、冬期間の降雪が多くなっています。流域の年間降水量は、会津地方は約1,100mm、只見地方では約2,100mm、越後平野は約1,600mmに達します。

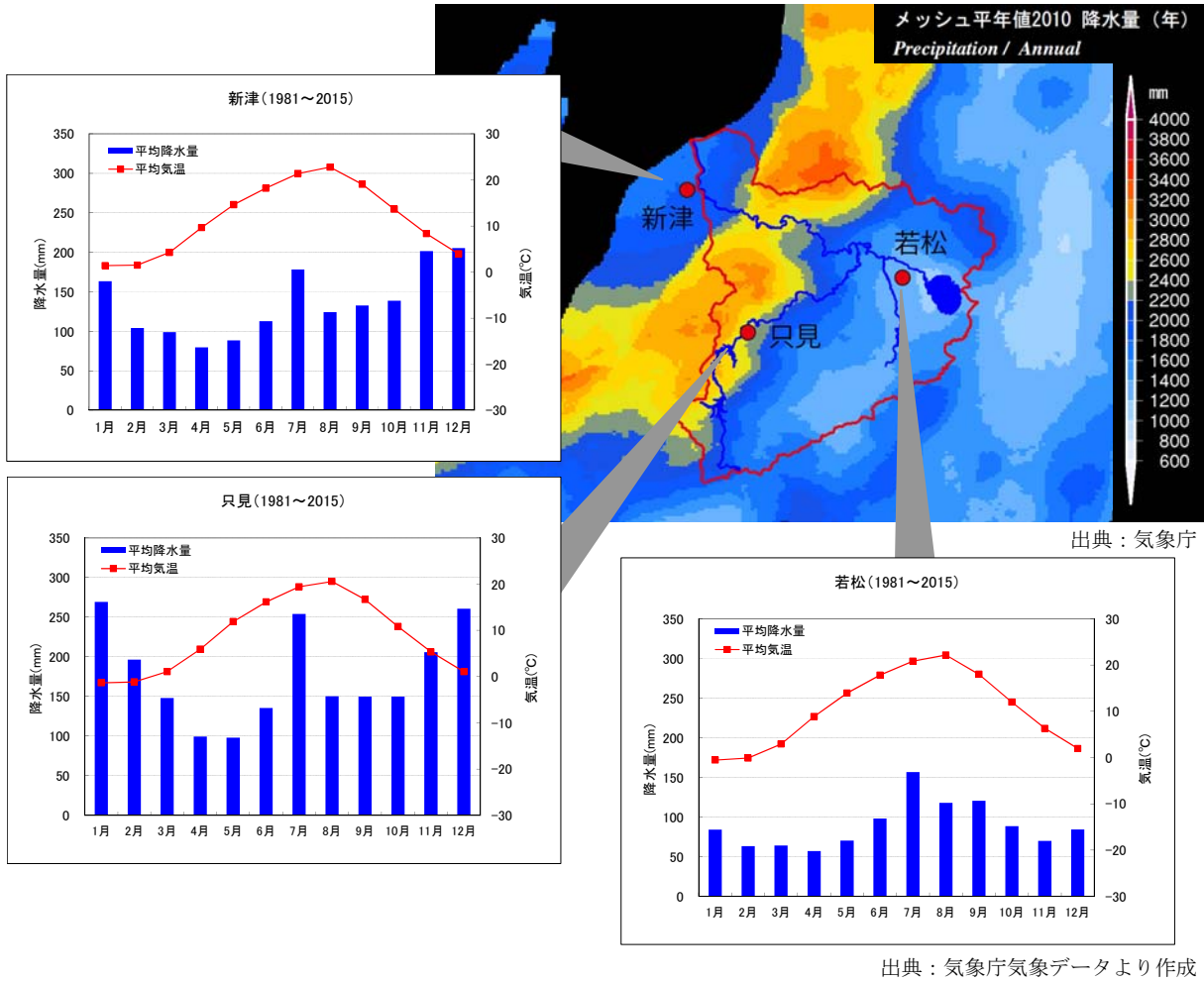


図 2.4 阿賀野川流域主要地点における気候

5. 人口

阿賀野川流域に関わる市町村の人口は、約 160 万人になります。

流域の主要都市である新潟県新潟市は、平成 17 年に 13 市町村と合併し、平成 27 年 7 月現在の人口は約 80.3 万人となっており、平成 19 年 4 月 1 日に本州日本海側初の政令指定都市へ移行しています。福島県会津若松市は平成 16 年に北会津村と、平成 17 年に河東町と合併し、現在の人口は約 12.4 万人となっています（いずれも平成 27 年 7 月末時点の住民基本台帳の数値）。

経年的な人口の推移をみると、福島県内および新潟県内流域の人口は横ばい傾向にあります。

表 2.2 阿賀野川流域に関わる市町村人口の推移

	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
新潟県内	68.8	70.9	73.0	81.1	85.9	88.3	89.5	90.9	91.6	91.5	90.7
福島県内	52.2	61.2	60.4	61.3	63.5	64.9	65.8	66.8	66.7	65.6	63.7
群馬県内	0.8	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5
新潟市	57.8	60.4	63.2	68.1	73.1	76.0	77.7	79.6	80.9	81.4	81.2
会津若松市	11.9	12.0	12.1	12.5	13.1	13.5	13.6	13.7	13.5	12.2	12.6

単位：万人

※人口は国勢調査を基に算出。H13～H17 にかけての市町村合併を考慮。

新潟市：旧黒崎町、旧新津市、旧白根市、旧豊栄市、旧小須戸町、旧横越町、旧亀田町、旧岩室村、旧西川町、旧味方村、旧潟東村、旧月潟村、旧中之口村、旧巻町を含む

会津若松市：旧北会津村、旧河東町を含む

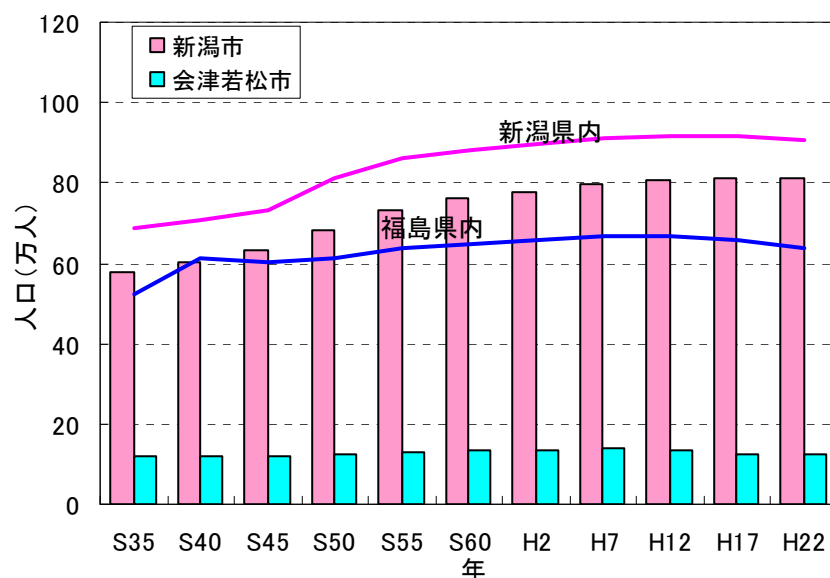


図 2.5 阿賀野川流域関係市町村人口経年変化（群馬県内人口は除く）

第2章 阿賀野川の概要

6. 産業

流域の産業をみると、製造品出荷額では約 21,400 億円、農業産出額では約 1,900 億円となっています。

新潟県は、米の産出額、米菓の出荷額、チューリップの切り花など全国 1 位の項目があり、その他高度な生産活動が行われています。

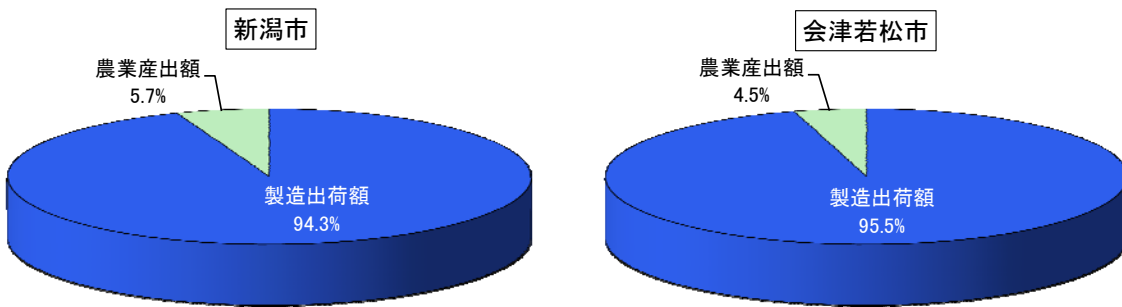
一方、上流部は伝統的地場産業として漆器の生産が有名であり、また第 1 次産業の占める割合が多くなっていますが、近年、会津地方では情報技術産業の発展が著しくなっています。

阿賀野川全流域内の産業別就業者数の構成比は以下のとおりです。

表 2.3 阿賀野川流域市町村製造品出荷額等

	金額
製造品出荷額	21,439 億円
農業産出額	1,934 億円

出典：製造品出荷額：平成 25 年工業統計表（経済産業省）
 農業産出額：平成 18 年生産農業所得統計（農林水産省）



出典：製造品出荷額：平成 25 年工業統計表（経済産業省）
 農業産出額：平成 18 年生産農業所得統計（農林水産省）

図 2.6 農業と工業の出荷額

表 2.4 阿賀野川流域産業別人口

	産業別人口
第 1 次産業	39,871 人
第 2 次産業	110,401 人
第 3 次産業	158,579 人

出典：平成 11 年度河川現況調査

7. 交通

江戸時代、阿賀川および阿賀野川は新潟港と会津を結ぶ、舟運の重要な経路となっていました。その始まりは、貞享3年(1686)に塩川村の栗村権七郎が会津藩から事業資金を借り入れ、船20隻を造り、塩川から下ったとされており、会津と新潟は古くから交流が盛んであったことが伺えます。

明治24年には、新潟～会津若松間の県道が開通し、昭和37年には一級国道49号(40年に一般国道指定)に昇格しました。また、大正4年には磐越西線が郡山～会津若松～新潟間で全線開通しています。

近年では磐越自動車道の開通と日本海沿岸東北自動車道も整備されつつあり、今後の流域の発展が期待されています。



図 2.7 阿賀野川流域における交通網

第2章 阿賀野川の概要

8. 土地利用

阿賀野川流域の土地利用は、流域全体に占める森林の割合が多く、約 80%となっています。新潟県側では新潟市を中心に都市化が著しく、福島県側では会津若松市を中心に市街地となっており、阿賀野川流域全体の市街地の割合は 2.5%となっています。

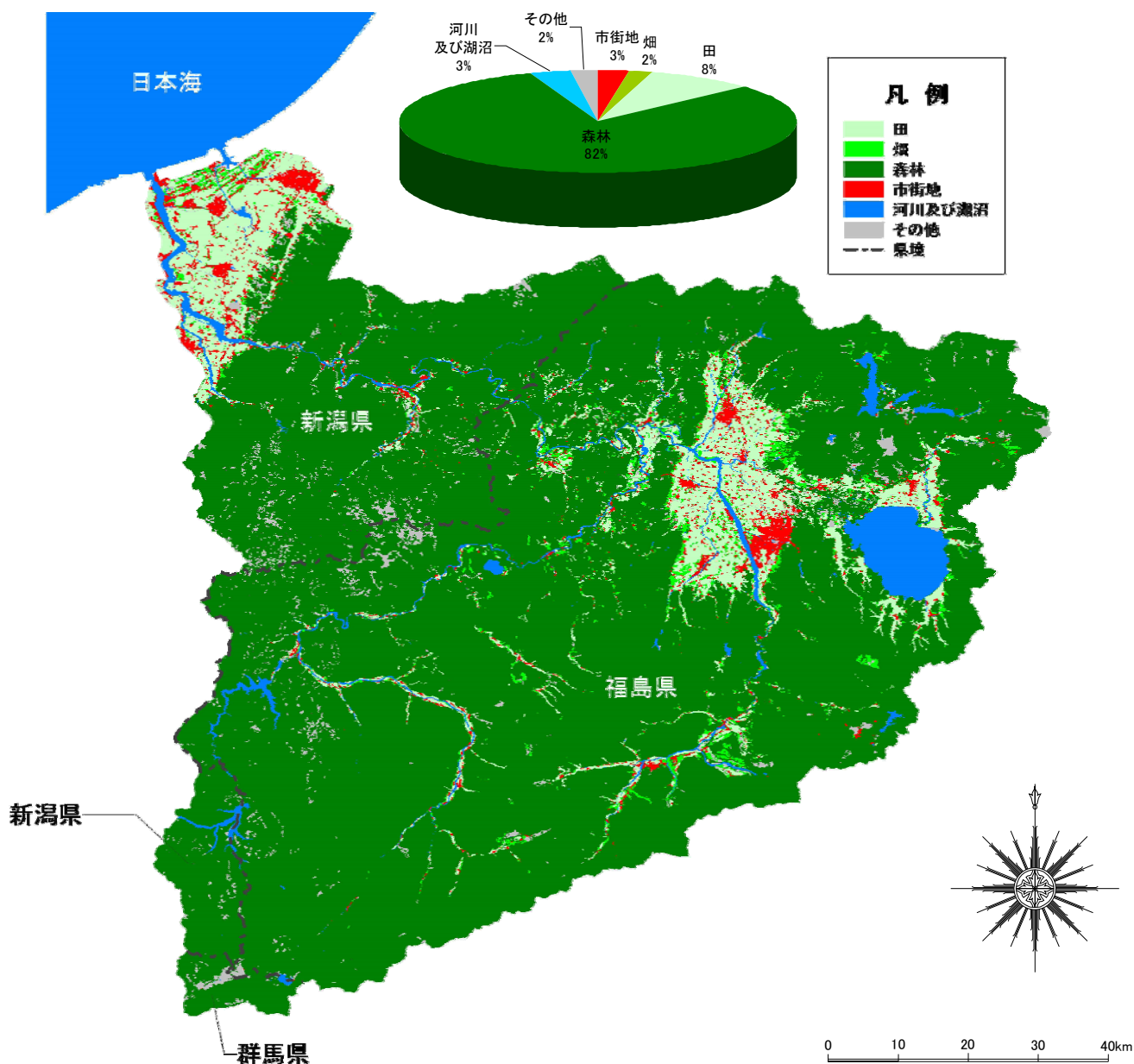


図 2.8 阿賀野川水系土地利用状況図 (H21)

表 2.5 阿賀野川水系土地利用別面積

	流域全体	市街地	畑	田	森林	河川及び湖沼	その他
面積(km ²)	7,710	196	152	651	6,282	261	168
構成比(%)	100.0	2.5	2.0	8.4	81.5	3.4	2.2

※国土数値情報 土地利用細分メッシュデータより算出。「市街地」は建物用地（2戸以上の独立建物が13m以内に近接している箇所、住宅団地の街区全域、工場・学校等）を対象とする。

第2節 河道特性

阿賀川および阿賀野川は、その源を栃木・福島県境の荒海山（標高 1,580m）に発し、福島県内において、檜沢川、鶴沼川等の支川を合わせ、山間部を北流して会津盆地に入ります。さらに、猪苗代湖から流下する日橋川等の支川を合わせ、喜多方市慶徳町山科地先において再び山間部に入り、只見川等の支川を合わせて渓谷を西流し新潟県に入った後、五泉市馬下地先で新潟平野に出て新潟市松浜において日本海に注いでいます。

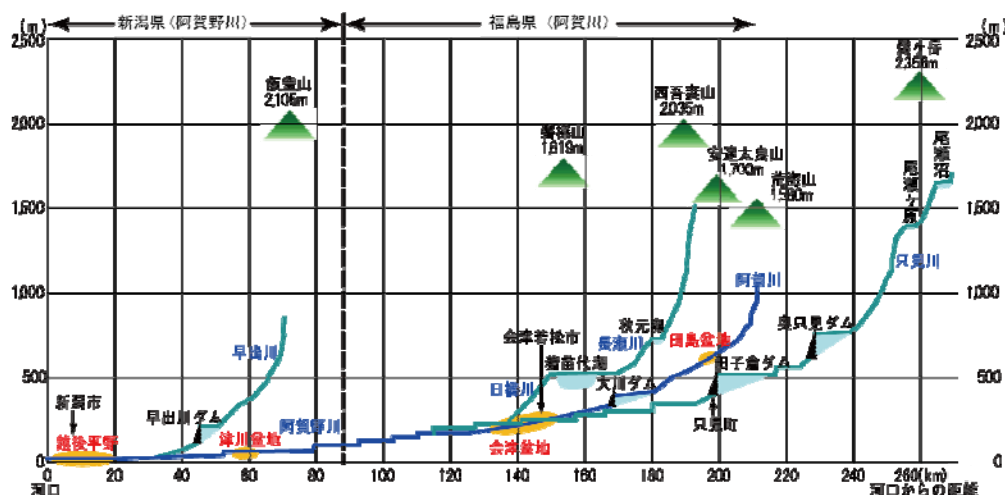


図 2.9 阿賀野川縦断面図

阿賀野川を阿賀川（山地部）、阿賀川（盆地部）、中流部、阿賀野川に区分し、各区分の河道特性について示します。



区分	地形概要
阿賀川 (山地部)	源流～馬越頭首工 河床勾配：約 1/20～1/180 山間部を蛇行しながら流下
阿賀川 (盆地部)	馬越頭首工～長井橋付近 河床勾配：約 1/200～1/900 扇状地性低地が形成、流路は著しく蛇行 旧宮川合流後は渓谷の様相
中流部	長井橋付近～阿賀野川頭首工 山間部を大きく蛇行しながら流下
阿賀野川	阿賀野川頭首工～河口 河床勾配：約 1/1,000～1/15,000 流路が大きく蛇行 河口砂州が形成

図 2.10 阿賀野川の河川区分

第2章 阿賀野川の概要

1. 阿賀川(山地部)(源流～馬越頭首工)

源流から田島盆地にかけての山地部では、河床勾配は約 1/20～1/100 であり、上流部は両岸に山地が迫った溪谷となっており、会津高原駅より下流部は谷底平野が広がっています。河道幅は 20m～50m 程度です。

田島盆地から馬越頭首工にかけての上流部では、河床勾配は約 1/180 であり、旭ダム（下郷町）周辺は少し緩勾配で、その下流部で再び急勾配となり、戸石川や鶴沼川等の支川を合わせて大川ダムへと流入します。河道幅は 50m～200m 程度です。



写真 2.1 小谷堰堤付近

2. 阿賀川(盆地部)(馬越頭首工～長井橋付近)

馬越頭首工から宮川合流点付近までは河床勾配は約 1/200～1/300 であり、会津盆地の扇状地を流下し、河道幅は 300m～600m 程度で両岸や中州に粗礫が多く分布しています。

宮川合流点付近から山科地点付近までは河床勾配は約 1/600～1/900 であり、日橋川や濁川など多くの支川が合流する区間で河道幅は 250m～400m 程度、両岸や中州に砂礫が多く分布しています。



写真 2.2 会津大橋付近(阿賀川 17k～18k) 写真 2.3 会青橋付近(阿賀川 7k～8k)

さらに山科地点から長井橋付近までは、河床勾配は約 1/800 であり、大きく蛇行しながら山間部を流下し、河岸近くまで山地が迫り、河岸段丘が形成され、河道幅は 100m 程度です。河道は主に岩や土崖で形成されていますが、蛇行部では、両岸や中州に砂礫地が形成されています。

3. 中流部(長井橋付近～阿賀野川頭首工)

長井橋付近から阿賀野川頭首工付近までは、流域最大の支川である只見川が合流し、利水ダム群が連続して設置され、大きく蛇行しながら山間部を流下します。蛇行部では、両岸や中州に砂礫地が形成されています。



写真 2.4 泡ノ巻橋地点付近(阿賀川 3k~4k)

4. 阿賀野川(阿賀野川頭首工～河口)

阿賀野川の河床勾配は約 1/1,000～1/15,000 であり、水面幅はおよそ 300m～960m です。沼海第一・第二床固により上流の川幅の狭い区間では流路が大きく蛇行し、瀬・淵も多く、両岸や中州に砂礫地が形成されています。23km 地点では早出川が合流します。



写真 2.6 渡場床固付近(阿賀野川 29k~30k)



写真 2.5 新横雲橋付近(阿賀野川 15k~16k)

河口付近の河床勾配は約 1/15,000 であり、水面幅はおよそ 1,000m です。河口付近は潮汐の影響を受ける汽水域であり、河口砂州が形成されています。5km 地点には長さ 300m 以上の大規模な中州が形成されています。



写真 2.7 河口付近

第2章 阿賀野川の概要

第3節 自然環境

1. 流域の自然環境

会津盆地を流れる阿賀川は 500m～600m という幅の広い河道を有し、その中に網目状の流路が形成され、洪水のたびに流路が変化しています。河道の中の礫河原にはツルヨシ群落、ヤナギ林が広く分布し、水域ではカジカ、陸域ではカワラハハコ、カワラバタなど礫河原特有の生物が生息・生育しています。また、湧水も多く、^{りくふうがた}陸封型イトヨも生息しています。

一方、阿賀野川下流部の川辺には、礫河原、蛇行区間や湿地、広いヨシ原や水面、砂州などが存在し、ウケクチウグイなど河川の流れに応じた様々な生物が生息しています。河口部には、砂州が形成され、特徴的なハマエンドウやハマヒルガオなどの海浜植物が広く分布しています。

また、只見川の源にある尾瀬は、景観の美しさはもとより、野鳥や昆虫類の宝庫として、植物学上の貴重な資源として知られており、国の特別天然記念物にも指定されています。高層湿原である尾瀬ヶ原は、泥炭が多量に蓄積され、周囲よりも高くなったため、雨水のみで維持されており、ミズゴケ類が植生の中心となっています。



礫河原



カワラハハコ



陸封型イトヨ

写真 2.8 阿賀川における主な自然環境



ウケクチウグイ



ヨシ



河口砂州

写真 2.9 阿賀野川における主な自然環境

2. 観光地・景勝地

阿賀野川流域における観光・景勝地は、代表的なものとして、渓谷の美しさにふれながらゆったり下る阿賀町の阿賀野川ライン下りがあります。

また、阿賀川下流部には、地層が露出している泡の巻下流の河岸があります。また、奇岩怪石が塔のように並立する塔のへつり（へつりとは、川に迫った険しい断崖を意味する方言）は、多彩な峡谷を織りなし、大川ライン最大の景勝地となっています。

阿賀野川流域には、阿賀川および阿賀野川の水面及び高水敷を利用した祭りやイベントが数多く開催されています。春季には会津若松城など各地で桜祭りおよび阿賀町では「キツネの嫁入り」などが開催され、夏季は花火大会や、水面を利用したイベントが多数開催されています。冬季には猪苗代湖などにハクチョウが渡来し、訪れる人の目を楽しませています。



写真 2.10 阿賀野川ライン舟下り



写真 2.11 泡の巻下流の河岸



出典：下郷町 HP

写真 2.12 塔のへつり



写真 2.13 会津若松城（鶴ヶ城）



写真 2.14 松浜まつり



写真 2.15 猪苗代湖

第2章 阿賀野川の概要

3. 特徴的な河川景観

阿賀川および阿賀野川は、源流から下流にかけて様々な顔を見せる大河です。

阿賀川上流部の山間部では溪谷景観の景勝地となっており、その後、会津盆地に入ると、砂礫河原が広がっています。会津盆地を抜け山間部に入ると再び溪谷の様相を呈し、溪谷美にふれながらゆったりと下る阿賀野川ライン舟下りが行われています。阿賀野川では、扇状地から低平地となり雄大な山並みを背景に大河のゆとりを感じられる河川景観を形成しています。朝もやの麒麟山、風流雪見船、もやい舟たそがれ等の阿賀野川八景があります。

また、本川以外にも流域内には日本を代表する湖のひとつである猪苗代湖や、越後平野が昔、海であった名残である福島潟などがあります。



写真 2.16 朝もやの麒麟山



写真 2.17 風流雪見船



写真 2.18 もやい舟たそがれ

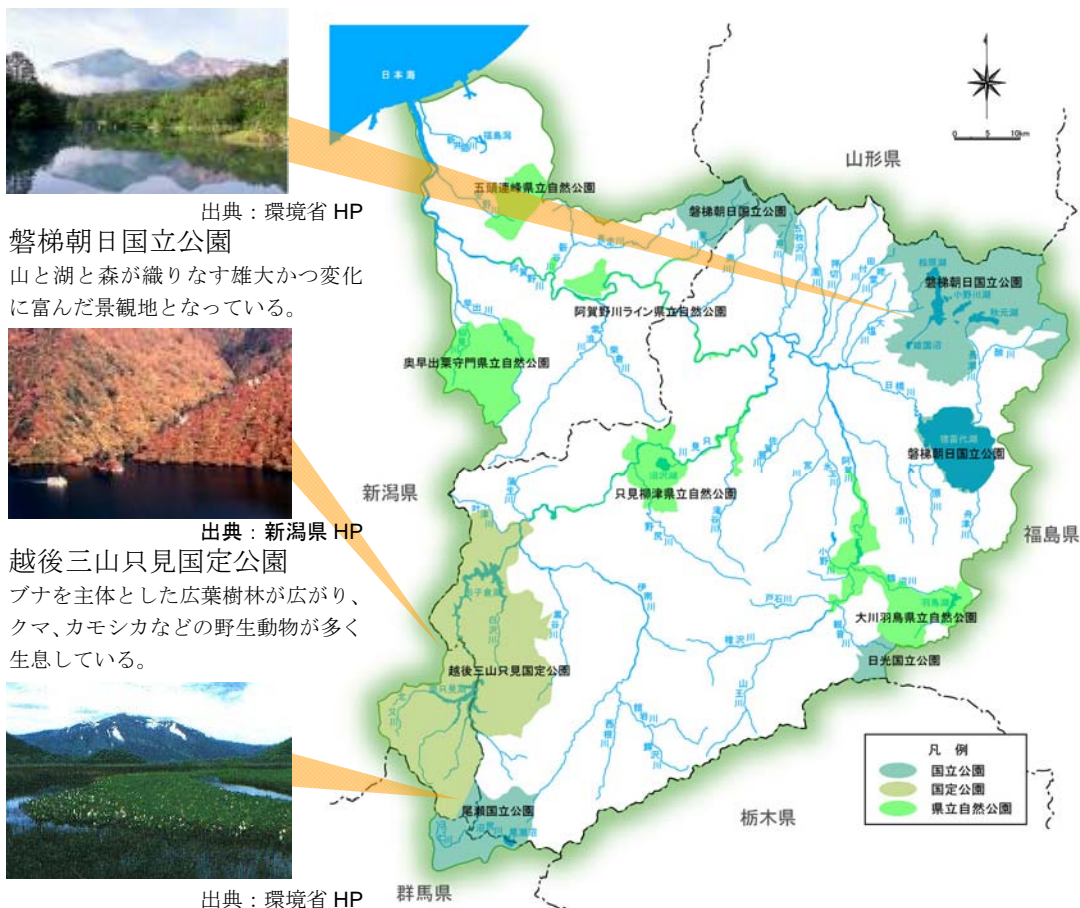


写真 2.19 福島潟

4. 自然公園等の指定状況

阿賀野川流域における国立公園としては、尾瀬ヶ原のある尾瀬国立公園および山と湖と森が織りなす雄大かつ変化に富んだ景勝地である磐梯朝日国立公園があります。国定公園としては、越後三山只見国定公園があります。県立自然公園としては、只見柳津^{わないつ}県立自然公園や阿賀野川ライン県立自然公園等の5つの県立自然公園があります。

さらに、只見町では平成26年6月12日に「只見ユネスコエコパーク」としての登録がユネスコ MAB 計画の国際調整理事会で承認される等、只見の自然・文化との共存が世界的に認められております。



出典：環境省 HP
磐梯朝日国立公園
 山と湖と森が織りなす雄大かつ変化に富んだ景勝地となっている。

出典：新潟県 HP
越後三山只見国定公園
 ブナを主体とした広葉樹林が広がり、クマ、カモシカなどの野生動物が多く生息している。

出典：環境省 HP
尾瀬国立公園
 尾瀬ヶ原は我が国最大の湿原でありミズバショウやニッコウキスゲの群生地としても有名である。

図 2.11 阿賀野川水系内の自然環境保護区

表 2.6 阿賀野川水系内の自然環境保護区一覧

種別	名称	面積 (ha)	指定年月日
国立公園	尾瀬国立公園	37,200	H19.8.30
〃	(福島県)	(17,240)	
〃	磐梯朝日国立公園	189,582	S25.9.5
国定公園	越後三山只見国定公園	86,129	S48.5.15
県立自然公園	只見柳津県立自然公園	15,668	S26.3.27
〃	大川羽鳥県立自然公園	16,544	S28.3.14
〃	五頭連峰県立自然公園	6,013	S34.3
〃	阿賀野川ライン県立自然公園	2,919	S34.3
〃	奥早出栗守門県立自然公園	34,155	S34.3

※国立公園・国定公園に関しては、福島県側の面積を示している

第2章 阿賀野川の概要

第4節 歴史・文化等

1. 文化財等

阿賀野川流域には文化財が多数存在しており、国による指定のみでも42点あります。

福島県会津地域には、熊野神社長床や勝常寺薬師堂など平安や鎌倉時代の文化財の他に、有栖川宮威仁親王の別邸であった天鏡閣や江戸時代に会津西街道の宿場町として栄えた大内宿が今も当時の姿を残しています。また、新潟県新発田市には慶長3年溝口秀勝により築城された新発田城があります。

阿賀野川流域の国指定史跡・名勝には、阿賀野川の支流室谷川の側方侵食により形成された洞窟である室谷洞窟遺跡が存在し、福島県指定史跡には、御清水や一ノ戸川橋梁等が存在します。

阿賀野川流域の国指定天然記念物には、本州最大の湿原である尾瀬や柳津のウグイ群の生息地などが存在し、福島県指定天然記念物として白山沼のイトヨ生息地等、新潟県指定天然記念物としてキリン山の植物群落等が存在しています。



出典：新発田市 HP

写真 2.20 新発田城



出典：阿賀町 HP

写真 2.21 室谷洞窟遺跡



出典：福島県 HP

写真 2.22 一ノ戸川橋梁



出典：福島県 HP

写真 2.23 尾瀬国立公園



出典：福島県 HP

写真 2.24 白山沼



出典：阿賀町 HP

写真 2.25 キリン山の植物群落



出典：(社)新潟県観光協会 HP

写真 2.26 満願寺稲架木並木



出典：喜多方市 HP

写真 2.27 熊野神社長床



出典：下郷町 HP

写真 2.28 大内宿

2. 新潟水俣病

阿賀野川流域では新潟水俣病が発生した歴史があります。

水俣病は、毒性の強いメチル水銀に汚染された魚介類をたくさん食べたことにより起きる中毒性の神経系疾患です。1956（昭和 31）年に熊本県水俣湾周辺で最初に患者が確認されたことにより、「水俣病」という病名が付けられました。

新潟県では、1965（昭和 40）年に阿賀野川流域で発生が確認されました。これは、それ以前に昭和電工株式会社鹿瀬工場がメチル水銀を含んだ工場排水を阿賀野川に流し、これに汚染された川魚を多く食べたことが原因でした。

阿賀野川を舞台に発生したこの水俣病は、阿賀野川流域地域に多数の被害者を生み出しました。2016（平成 28）年 1 月 31 現在で、「公害健康被害の補償等に関する法律」に基づき認定され原因企業から補償を受けている人が 704 人（うち 540 人は死亡）となっています。また、そのほかにも一定の神経症状を有し、水俣病総合対策医療事業により医療費等の支給を受ける人が 2015（平成 27）年 4 月現在、2,708 人にもものぼっています。被害者の多くは高齢化し、亡くなった人もたくさんいます。

新潟水俣病の被害者は 1967（昭和 42）年、日本初の公害裁判として訴訟を起こし、昭和電工の責任が認められました。1982（昭和 57）年の第二次訴訟は 1995（平成 7）年に政治解決により和解しました。これにより、大きな社会不安を生んだ水俣病問題は、一応の決着が見られました。しかし、2004（平成 16）年のいわゆる熊本水俣病関西訴訟最高裁判決で初めて行政責任が認められたことを契機に、これまで偏見や中傷を恐れ認定申請していなかった多くの被害者が申請したり、2007（平成 19）年 4 月には「新潟水俣病第三次訴訟」が、2009 年（平成 21）6 月には「ノーモア・ミナマタ新潟全被害者救済訴訟」が起こされるなど、新たに裁判を起こす人も増えました。なお、その後「ノーモア・ミナマタ新潟全被害者救済訴訟」は 2011 年（平成 23）年に昭和電工・国と原告の間で和解が成立しました。

これら水俣病問題の最終解決を目指し、2009（平成 21）年 7 月、水俣病被害者救済特措法が新たに制定されました。これによって、一定の症状が認められる人は、水俣病総合対策医療事業の対象となるとともに、原因企業から一時金が支給されました。また、2010 年（平成 22）年 5 月 1 日、当時の鳩山総理大臣が、熊本、鹿児島にとどまらず新潟で第二の水俣病が引き起こされるなど、水俣病被害の拡大を防止できなかったことについて、国の責任を認めお詫びをしました。

新潟県では、水銀の影響を取り除く工事や検査を重ね、1978 年（昭和 53）年 4 月には阿賀野川の汚染の影響が解消されたことを確認して安全宣言を出しました。また、新潟水俣病地域福祉推進条例を 2009 年（平成 21）年 4 月に施行し、新潟水俣病患者の福祉の増進、理解を深め偏見や中傷をなくすための教育・啓発の推進、地域に及ぼした深い亀裂の修復などを目的とした施策を進めており、新潟水俣病患者の皆さんを含め、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指しています。

『誰もが安心して暮らせるために、新潟県』、『未来へ語りついで ～新潟水俣病が教えてくれたもの～ 小学校教育副読本，新潟県』等より抜粋・編集